

平頂山事件とは

「滿州國」建国に対する抗日闘争がひろがり独立守備隊(関東軍の前身)が厳重警備態勢に当たっていたにもかかわらず、1932年(昭和7)9月15日深夜から翌16日未明にかけて、2000人余りの大刀会(たいとうかい)(抗日集団)による撫順(ぶじゅん)炭鉱攻撃事件が発生しました。この攻撃で日本側は死者5人、負傷者7人をだしました。面目丸潰れの日本守備隊は、報復としてその後、ゲリラの足場になったとみられる撫順近郊の平頂山集落を包囲し、そして全集落民を近くの採砂場のかけ下に追い込み、大人も子どもも母親も全員を機関銃で射殺しました。機銃掃射を終えると日本兵が累々と重なりあって倒れている住民の上に隊列を組んで歩きながら、息のあるものを見つけると容赦なく銃剣で突き刺しました。死者は2300人から2500人と推定されます。さらに平頂山集落に火を放ち、集落そのものを完全に消してしまいました。

累々と横たわる白骨



日本軍が殺して埋めた現状を掘り起こしたまま、平頂山惨案遺址紀念館(遺骨館)に保存されている。

翌9月17日、日本兵は虐殺現場に残された死体の山にガソリンを撒き、これを焼却しました。さらにその数日後には、ダイナマイトで崖を崩し、土砂で死体の山を覆い隠しました。この虐殺事件から奇跡的に生還した莫徳勝(ばくとくしょう)、楊宝山(ようほうさん)、方素栄(ほうそえい)さんの3人による戦争被害賠償請求訴訟が1996年東京地方裁判所に提訴され、10年におよぶ裁判闘争がたたかわれ、2006年5月最高裁上告棄却で幕を閉じましたが、裁判で虐殺事件

の真相を公にした意義は大きかったといえます。その活動はさらに継続されています。

事件のあった平頂山の位置撫順炭鉱事務所



事実を認め、謝罪と賠償を!



生き残った人々

(左から莫徳勝、楊宝山、方素栄さん)

東京地方裁判所前で(2002年6月28日)



関連ホームページ

平頂山事件資料館

<https://www.heichozan.com/>

